11 章　唐津焼窯元の作陶に対する共通意識の計量分析

１節　課　題

本章の研究は，佐賀県の伝統産業の一つであり，特許庁に地域団体商標として登録された地域ブランドを有している唐津焼協同組合「唐津焼」を取り上げ，唐津焼窯元の作陶に対する共通意識について計量的に分析することを目的とする．

唐津には，約 70 もの窯元があり，全国に知名度を誇る一流作家から若手作家まで， 多種多様な作家が独自のスタイル・想いを持って作陶に挑んでいるとのことである[注 1)]．窯元作家のご紹介には，そのうちの 61 の窯元が紹介されている[注 2)]．本章の研究は，紹介されている 61 の窯元の「基本情報」と「作家紹介」の掲載されている文面等を，まず EXCEL ソフトにて入力書式を作成し，つぎにその EXCEL データを ACCESS データベースソフトにインポートし，研究目的にそって数量化データを得るために文字検索をおこなった．

本章の研究では，データベースソフトで検索して唐津焼作家共通の認識を探るため，唐津焼の歴史的な面を把握する必要がある．唐津市史編纂委員会編纂『唐津市史』による唐津焼の起源と変遷には，旧説（神宮皇后による縁や室町期開窯説等からの起源）と新説とがあり，後者は朝鮮の役を契機として朝鮮陶工の来住と，古田織部[1544（天文 13）～1615（元和元）年：織田信長，豊臣秀吉に仕え，1585（天正 15）年従五位下織部正に叙位され織部と称される．小牧・長久手の戦，九州討伐などにも功をあげ，京都西岡に３万５千石を領している．千利休に茶の湯を学び千利休亡き後，古織流または織部流として一流となる．2 代将軍徳川秀忠をはじめ諸大名に茶の湯を伝授し，武家茶道を確立したが，関が原の戦いでは徳川方に属していたが，大坂の陣で豊臣方へのない通の嫌疑にかけられ自刃を命じられている[注 3)]．]の指導，太閤の茶の湯の遊楽に刺激され陶器の流行最高潮に達したとのことである．ただ，この朝鮮の役の前には松浦党の岸嶽城主波多氏が城を中心とした諸窯で優秀な陶器の生産（岸嶽古唐津）し続けていた．1594（文禄３）年波多三河守親（波多親：1594（文禄３）～1596 または 597（慶長元年又は慶長２）年は朝鮮出征中，太閤の忌諱に触れ，筑波山麓に配流され，岸嶽城[注 4)] も落城し所領没収されている．これによって，陶工も各地に離散し，岸嶽古唐津も一時中絶したと考えられるが，その陶技は陶工たちによって各地に伝えられ多久古唐津，武雄古唐津，平戸古唐津となったとのことである．1597（慶長２）年波多家の旧領を受け継いだ寺沢志摩守[寺沢広高：1564（永禄７）～1633（寛永 10）年：豊臣秀吉の家臣寺沢広正の子で，文禄・慶長の役に名護屋城普請を分担，関ヶ原の戦いには東軍につき，岐阜城を攻撃．のち唐津 12 万石の大名となっている[注 5)]．]は陶工の保護，優遇に努め窯業の奨励発展策を講じている[注 6)]．離散していた陶工たちが旧領の椎の峯（現在の伊万里市南波多町）に岸嶽系の唐津焼を再興した．これが現在の伊万里系唐津・椎の峯窯として続いている．また，『唐津市史』には唐津焼の種類と古窯が記載されているのでそれを紹介すると，種類については（1）奥高麗（李朝風の高麗茶碗に似た名器で，古唐津の最高品），（2）斑唐

津（岸嶽系の雑器．長石を砕いた釉に土灰とワラ灰を混ぜて掛けて，白い肌に鉄分の青い筋があらわれる．白と青の釉の濃淡の斑を指す），(3) 朝鮮唐津（斑唐津の白釉と鉄分の強い飴色釉を２重にかけるなどしたもの），(4) 三島唐津（朝鮮の役後，椎の峯などで作られた白象嵌[白い土に縄状の凹みをつけ，青い土 を嵌めこんでいる器など]のもので，李朝陶器には花三島・三島暦手という白象嵌ある．(5) 瀬戸唐津（朝顔型によく開いた平茶碗で，細い白い漉し土で長石の柔らかい白釉が高台ぎわまでかかっている．口縁には黒縁をめぐらしていわゆる皮鯨手というものがあるのを説唐津，ないものを本手瀬戸唐津），(6) 絵唐津（代表的な唐津焼，すべての窯で多かれ少なかれ焼かれている．初期のものは李朝鉄砂の単純な生々とした濶達さを取り入れた草花や鳥などが多く，とくに花より草が多くみられる．文様の力とその空間に特徴がある．茶碗よりも向附，向皿，鉢の類が多い．成形にも絵附にも型物を使用していない特徴）がある．主なる古唐津の窯址のうち，岸嶽古唐津窯址は (1) 飯洞甕窯（東松浦郡北波多村帆柱字鮎帰），(2) 帆柱窯（東松浦郡北波多村帆柱字鮎帰），(3) 皿屋窯（東松浦郡北波多村稗田字杉谷）(4) 道納屋窯（東松浦郡相知町上佐里字道納屋谷），(5) 平松窯（東松浦郡相知町字平松），(6) 大谷窯（東松浦郡相知町字長原）および (7) 小十官者窯（唐津市梨川内小十）寺であり，寺沢古唐津窯址は (1) 山瀬窯（東松浦郡浜崎玉島町字山瀬），(2) 櫨ノ谷窯（伊万里市南波多町高瀬字櫨ノ谷），(3) 大河原窯（伊万里市南波多町大河原字樅ノ木谷），(4) 道園窯（伊万里市松浦町堤川字道園），(5) 御坊谷窯（伊万里市松浦町字御坊谷），(6) 阿房谷窯（伊万里市松浦町藤川内字阿房谷）(7) 藤ノ川内窯（伊万里市松浦町藤川内字勝負谷），(8) 金石原窯（伊万里市松浦町中野原字広谷）および (9) 椎の峯（伊万里市南波多町府招字椎の峯）である[注7]．寺沢古唐津窯址のうち，現在の唐津焼は山瀬窯である．現在の唐津焼は，これらの歴史的背景に基づく窯元のコンセプトによって，作陶されているものと思われる．

ところで，本章の研究は上述のようにWEB上に紹介されている61の窯元についてデータベース化をおこなう．WEB上に紹介の窯元情報は「窯元名」，「氏名」，「性別」，「生年月日」，「出身校」，「住所」，「電話番号」，「窯元ホームページ」，「各窯元の沿革」などである（「生年月日」，「出身校」および「窯元ホームページ」の項目はすべての窯元によっては公表されていない）．これらの情報をEXCELソフトに入力したのが付表１である．入力情報のなかでとくに「各窯元の沿革」に文章で多くの情報が含まれているので検索システム（ACCESSのクエリ）を利用して数量化データを作成し，数量化Ⅰ類に属するMultiple Classification Analysis（MCA：多重分類分析，以下 MCA）技法を利用して唐津焼窯元の作陶に対する共通意識の計量分析をおこなう．陶磁器に関する分析に限らず，MCA技法を用いた意識調査の計量分析は，筆者が知る限り国会図書館検索においては内山敏典関連の研究[５][11][12]しか見当たらない．MCAについては２節のモデルで述べることにするが，MCAは数量化データによる因果分析であり，本章の研究では被説明変数に窯元の目的である「古唐津焼をベースに発展」，「朝鮮唐津を目標」および「唐津焼にとらわれない」の３カテゴリーに分類した．これらの各カテゴリーに影響を及ぼすと考えられる説明変数に性別（男性，女性の２カテゴ

リー)，生年（1980 年以前，1980 年以降，生年記載なしの３カテゴリー)，修業（佐賀県，佐賀県以外の九州，九州以外の産地の３カテゴリー)，こだわり（土へのこだわり，たたき・釉薬・石はぜ・掻き等)，こだわらないである．

本章の研究で用いる MCA 技法は，上述のように，数量化Ｉ類に属するものであるが，Ｉ類の分析で得られる回帰係数は発散型の値であるのに対し，MCA 分析で得られる回帰係数は収束型の値であることが注目される．それゆえ，被説明変数のカテゴリーごとに，それらの説明変数と各カテゴリーにそれぞれ回帰させて得られた各カテゴリーの修正済みカテゴリー係数の総和は上限が１となり，構成比の概念の値となっている．それゆえ，統計的に有意でない計測結果の値であっても構成比の観点からの解釈を行うことは可能である．

２節　モ デ ル の 設 定

本章の分析は，MCA 分析に基づいて唐津焼窯元がどのような目標をもって作陶対して，どのような要因と関連性をもっているかを因果分析より明らかにすることである．そこで，本節においては MCA 分析モデルを示すことにしよう．元来，MCA 分析はデジタルデータに基づくものであるために大規模データに良く利用される技法である．本研究の分析では，61 の窯元という小規模データでの分析になるため，統計的に有意でない結果も得られている．しかしながら，MCA 分析においては，被説明変数のカテゴリーごとで得られる各修正済カテゴリー平均値の総和が１を上限とした構成比で得られるので，統計的に有意でなくても解釈をおこなうことができる．

本研究のモデルをダミー回帰分析のもので示せばつぎのようになる．すなわち，

$$Y_p = b_0 + \sum_{i=1}^{2} b_{1i} X_{1i} + \sum_{j=1}^{3} b_{2j} X_{2j} + \sum_{k=1}^{3} b_{3k} X_{3k} + \sum_{l}^{3} b_{4l} + e_{ijkl\ldots m} \qquad (2-1)$$

$p = 1 \sim 3.$

ここで，Y の“唐津焼窯元の作陶目標”という被説明変数で，Y_p は被説明変数 p 番目のカテゴリーであり，Y_1 は‘とくに古唐津を目標としたい’，Y_2 は‘とくに朝鮮唐津を目標としたい’および Y_3 は‘とくに唐津焼をベースにニーズに合わせたものを目標としたい’である．朝鮮唐津は古唐津に含まれるが，それを敢えて分けたのは窯元のなかでとくに朝鮮唐津を目標としてしている窯元の存在があったためである．唐津焼窯元は当然唐津焼の影響を受けていることは勿論のことであるが，その上でこれらのカテゴリーに分類した．

X_1 は“性別”を示す説明変数で，X_{1i} はその変数の i 番目のカテゴリーを示し，X_{11} は‘男性の窯元’および X_{12} は‘女性の窯元’である．X_2 は“生年（月日)”を示す説明変数で，X_{2j} はその変数の j 番目のカテゴリーを示し，X_{21} は‘1980 年以前の誕生’，X_{22} は‘1980 年

以降の誕生’および X_{23} は‘生年記載なし’である．X_3 は“修行（出身）”を示す説明変数で，X_{3k} はその変数の k 番目のカテゴリーを示し，X_{31} は‘佐賀県の窯元’，X_{32} は‘佐賀県以外の九州窯元’および X_{33} は‘九州以外の産地の窯元’である． X_4 は‘窯元のこだわり’を示す説明変数で，X_{4l} はその変数の l 番目カテゴリーを示し，X_{41} は‘土へのこだわり’，X_{42} は‘たたき・釉薬・石はぜ・掻き等’および X_{43} は‘こだわらない’である．e はこのm番目の誤差項である．b_0 は定数項，b_{1i}, b_{2j} および b_{3k} は各説明変数の各カテゴリー係数である．これらの係数の値は各説明変数の各カテゴリーに被説明変数の各カテゴリーをそれぞれ回帰させることによって推定できる．これらの説明変数のうち，生年（月日）を 1980 年以前と 1980 年以後とに分類した．このように分類したのは現在の窯元の親子の年を考慮した．修行窯元や出身地の等については，佐賀県の産地の窯元，佐賀県以外の九州の山地の窯元，九州以外の産地の窯元である．このように分類したのはとくに九州以外の産地の窯元がどのくらいの人数があり，どのような目標を持って作淘しているかを分析するためである．分類するため参考にしたのは表２－１に集計した唐津窯作家の修行窯である．窯元のこだわりを土へのこだわり，たたき・釉薬・石はぜ・掻き等に分類している．

表２－１．唐津窯作家の修行窯

窯名	修行人数	修業先住所
あや窯	2	唐津市柏崎473
大杉皿屋窯	3	唐津市北波多大杉856-2
川上清美陶房	3	唐津市半田3073-4
鏡山窯	1	唐津市鏡4958
太閤三ノ丸窯	2	唐津市鎮西町菖浦2482-1
天平窯	1	唐津市浜玉町東山田1328-1
中川自然房窯	2	東松浦郡玄海町新田1469-27
山瀬窯	1	唐津市浜玉町山瀬1021-2
隆太窯	2	唐津市相知町楠175
幸悦窯	1	不明
光来窯	1	唐津市二タ子2－6－28
唐津陶土	1	唐津にある陶土を扱う企業
瀬戸	1	瀬戸にある瀬戸焼の窯元
備前	1	備前にある備前焼の窯元
親和陶磁器	1	有田町における陶磁器の商社
陶悦窯	1	有田の有田約窯元
有田	2	有田にある有田焼の窯元
自由工房	1	不明
陶玄窯	1	不明
藤ノ木	2	北九州
伊万里	2	伊万里
計	32	―

資料）http://karatsuyaki-kamamoto.jp/kamamoto.html より作成.

本章の研究では，アンケート調査に基づく因果分析に有効な MCA モデルによる分析をおこなう．(2－1) 式のダミー回帰分析は観測値にもっともフィットするように各カテゴリー係数を正規方程式で解いて推定するが，MCA モデル分析では各カテゴリーの係数を収束演算

によって推定するものである．この収束演算モデルはAndrews,F,M,他［１］を参照いただきたい[注8)]．そこで，（2－1）式をMCAモデルで表記するとつぎのようになる．すなわち，

$$Y_p = \bar{Y}_p + \sum_{i=1}^{2} b^*_{1i} X_{1i} + \sum_{j=1}^{3} b^*_{2j} X_{2j} + \sum_{k=1}^{3} b^*_{3k} X_{3k} + \sum_{l=1}^{3} b^*_{4l} X_{4l} + e_{ijkl\ldots m} \qquad (2-2)$$

p＝1～3.

ここで，$\bar{Y}_p$ は被説明変数 p 番目のカテゴリー平均値，b^*_{1i} は説明変数の X_{1i} の i 番目のカテゴリー係数，b^*_{2j} は説明変数の X_{2j} の j 番目のカテゴリー係数，b^*_{3k} は説明変数の X_{3k} の k 番目のカテゴリー係数および b^*_{4l} は説明変数の X_{4l} の l 番目のカテゴリー係数である．各カテゴリー係数の右肩の＊印はMCA技法の収束演算で推定されたことを示すものである．

３節　デ　ー　タ

本章の研究で用いたデータは，WEB上（http://karatsuyaki-kamamoto.jp/kamamoto.html）で紹介されている61の窯元の「基本情報」と「作家紹介」の掲載されている文面等を，まずEXCELソフトにて入力書式を作成し，つぎにその作成したEXCELデータをACCESSデータベースソフトにインポートし，研究目的にそって数量化データを得るために文字検索をおこなっている．EXCELデータは付表１であり，ACCESSデータベースソフトを用いてMCAモデルにしたがって作成したのが，表３－１である．この表３－１のデータをMCA技法を用いて計量分析する．

表３－１．被説明変数・説明変数とそのカテゴリー

窯名番号	窯名	唐津焼窯元の作陶目標 Y			性別 X_1		年齢 X_2			修行（出身） X_3			窯元のこだわり X_4		
		とくに古唐津を目標としたい Y_1	とくに朝鮮唐津を目標としたい Y_2	とくに唐津焼をベースにニーズに合わせたものを目標としたい Y_3	男性の窯元 X_{11}	女性の窯元 X_{12}	1980年以前の生まれ X_{21}	1980年以降の生まれ X_{22}	生年記載なし X_{23}	佐賀県（唐津・伊万里・玄海町等） X_{31}	佐賀以外の九州（福岡市、北九州市、宮崎県、熊本県） X_{32}	九州以外（新潟県、京都府、静岡県、米国、無回答） X_{33}	土へのこだわり X_{41}	たたき・釉薬・掻き落とし・絵・石はぜ X_{42}	その他の特長 X_{43}
1	アカミズガマ 赤水窯	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
2	あやガマ あや窯	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1
3	イキサガマ 伊岐佐窯	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0
4	オオヤマガマ 大天窯窯	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0
5	オオスギサラヤガマ 大杉皿屋窯	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1
6	オオタニコウボウシンドウダイガマ 大谷工房敷洞窯窯	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1
7	カズガマ 佳津窯	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
8	カワカミキヨミトウボウ 川上清美陶房	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
9	ビンネガマ 冠音窯	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
10	キシダガママサシキアン 岸岳窯三帰庵	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0
11	キタガマ 喜多窯	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0
12	キタハタガマ 北波多窯	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0
13	ジクウガマ 時空窯	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
14	キョザンガマ 鏡山窯	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1
15	ケイカガマ 桂花窯	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
16	ケイゼンボウガマ 敬善坊窯	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
17	ゲンゲガマ 玄々窯	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
18	ケンタロウガマ 健太郎窯	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
19	コウボウジュウセキ 工房流石	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1
20	コスギガマ 小杉窯	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1
21	サクレイガマ 作礼窯	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1
22	ヤマチャガマ 山茶窯	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1
23	サシヤマガマ 佐志山窯	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1
24	サンリガマ 三里窯	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1
25	シアワセトウボウセナ 幸福陶房瀬菜	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
26	マツエンジガマ 松円寺窯	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0
27	スガノタニガマ 菅ノ谷窯	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0
28	スギタニガマイキュウアン 杉谷窯異中庵	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0
29	ゾウゲンガマ 曹源窯	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
30	タノウヤサンノマルガマ 太留三ノ丸窯	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
31	チンゼガマ 鎮西窯	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0
32	ヒラヒロガマ 天平窯	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1
33	トウゲンガマ 唐玄窯	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1
34	トウコウボウツチノイブキ 陶工房土のいぶき	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
35	トウセンボウガマ 陶泉房窯	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1
36	トウフウガマ 東風窯	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1
37	トウボウソラ 陶ぼう空	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0
38	トウリガマ 東里窯	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
39	トノヤガマ 殿山窯	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
40	ドヘイガマ 土平窯	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0
41	トリスガマ 鳥巣窯	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1
42	ナカガワジネンボウガマ 中川自然房窯	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0
43	ナカザムタロウ ウエミントウボウ 中里太郎右衛門陶房	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0
44	ナカ ノツジガマ 中の辻窯	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
45	ナカノヤウチガマ 中野陶痴窯	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
46	ナミセガマ 浪瀬窯	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
47	ニシタガマ 炎向窯	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
48	ボウチュウガマ 坊中窯	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
49	ホウレンガマ 帆柱窯	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0
50	ホムラウボウ 炎群工房	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0
51	ミトウガマ 三藤窯	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0
52	ムサガマ 牟策窯	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0
53	モノハナコ Monohanako	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1
54	ヤトコガマ 八床窯	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
55	ヤマセガマ 山瀬窯	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
56	ユキコガマ 由紀子窯	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1
57	リュウジンガマ 龍仁窯	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
58	リュウタガマ 隆太窯	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
59	リュウドウガマガラクボウ 竜童窯我楽房	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
60	リュウフクジガマ 龍福寺窯	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0
61	ゴタンバヤンガマ 五反林窯	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
合計		13	6	42	52	9	27	12	22	12	9	40	12	8	41
構成比		21.31	9.84	68.85	85.25	14.75	44.26	19.67	36.07	19.67	14.75	65.57	19.67	13.11	67.21

資料）http://karatsuyaki-kamamoto.jp/kamamoto.html より ACCESS データベースで作成.

4節　計　測　結　果

本章の研究は，２節のモデルおよび３章の表３－１のデータにしたがい，MCA 技法を用いて計量分析をおこなった．その結果が，表４－１～表４－３である．

表４－１．被説明変数 Y_1 に対する各説明変数と各カテゴリーの計測結果

説明変数 X_α	カテゴリー $X_{\alpha\beta j}$		カテゴリーサイズ（人）とその構成比	被説明変数 Y_1：　とくに古唐津を目標としたい			
				$\overline{Y_1}$ = 0.2131	R^2=0.0114	R=0.1068	F=0.0870
				カテゴリー係数 $b^*_{i\alpha\beta}$	修正済みカテゴリー係数 $\overline{Y_1}+b^*_{\partial\beta}$	偏相関係数 F_α	説明変数の F_α値
性別	男性の窯元	X_{11}	52(85.25)	0.0023	0.2154	0.0136	0.0051
X_1	女性の窯元	X_{12}	9(14.75)	-0.0132	0.1999		
生年（月日）	1980年以前の生まれ	X_{21}	27(44.26)	0.0055	0.2186	0.0747	0.1142
X_2	1980年以降の生まれ	X_{22}	12(19.67)	0.0504	0.2635		
	生年記載なし	X_{23}	22(36.02)	-0.0342	0.1789		
修業(出身)	**佐賀県の産地の窯元**	X_{31}	12(19.67)	0.0310	0.2441	0.0391	0.0681
X_3	**佐賀県以外の九州の産地の窯元**	X_{32}	9(14.75)	0.0036	0.2167		
	九州以外の産地の窯元	X_{33}	40(65.57)	-0.0101	0.2030		
窯元のこだわり	**土へのこだわり**	X_{41}	12(19.67)	-0.0581	0.1549	0.0819	0.1094
X_4	**たたき・釉薬・石はぜ・掻き等**	X_{42}	8(13.11)	0.0578	0.2709		
	こだわらない	X_{43}	41(67.21)	0.0057	0.2188		

モデル：(2－1) 式および (2－2) 式.

以下の表も同じ.

表４－２．被説明変数 Y_2 に対する各説明変数と各カテゴリーの計測結果

説明変数 X_α	カテゴリー $X_{\alpha\beta}$		カテゴリーサイズ（人）とその構成比	被説明変数 Y_2：　とくに朝鮮唐津を目標としたい			
				$\overline{Y_2}$:0.0984	R^2=0.1122	R=0.3350	F=0.9572
				カテゴリー係数 $b^*_{\alpha\beta}$	修正済みカテゴリー係数 $\overline{Y_2}+b^*_{\partial\beta}$	偏相関係数 F_α	説明変数の F_α値
性別	男性の窯元	X_{11}	52(85.25)	0.0136	0.1120	0.1099	1.1354
X_1	女性の窯元	X_{12}	9(14.75)	-0.0786	0.0198		
生年（月日）	1980年以前の生まれ	X_{21}	27(44.26)	-0.0582	0.0402	0.1742	1.0515
X_2	1980年以降の生まれ	X_{22}	12(19.67)	0.0475	0.1459		
	生年記載なし	X_{23}	22(36.02)	0.0455	0.1439		
修業(出身)	**佐賀県の産地の窯元**	X_{31}	12(19.67)	-0.0051	0.0933	0.0085	0.0230
X_3	**佐賀県以外の九州の産地の窯元**	X_{32}	9(14.75)	0.0018	0.1002		
	九州以外の産地の窯元	X_{33}	40(65.57)	0.0011	0.0995		
窯元のこだわり	**土へのこだわり**	X_{41}	12(19.67)	0.1425	0.2409	0.2452	2.1869
X_4	**たたき・釉薬・石はぜ・掻き等**	X_{42}	8(13.11)	-0.0829	0.0155		
	こだわらない	X_{43}	41(67.21)	-0.0255	0.0729		

表４－３．被説明変数 Y_3 に対する各説明変数と各カテゴリーの計測結果

説明変数 X_α	カテゴリー $X_{\alpha\beta j}$	カテゴリーサイズ（人）とその構成比	被説明変数 Y_3：とくに唐津焼をベースにニーズに合わせたものを目標としたい			
			$\overline{Y_3}$=0.6885	R^2=0.0330	R=0.1817	F=0.2587
			カテゴリー係数 $b^*_{\partial j}$	修正済みカテゴリー係数 $\overline{Y_3}+b^*_{\partial\beta}$	偏相関係数 F_α	説明変数の F_α 値
性別 X_1	男性の窯元 X_{11}	52(85.25)	−0.0159	0.6726	0.0825	0.3818
	女性の窯元 X_{12}	9(14.75)	0.0918	0.7803		
生年（月日） X_2	1980年以前の生まれ X_{21}	27(44.26)	0.0527	0.7412	0.1215	0.4671
	1980年以降の生まれ X_{22}	12(19.67)	−0.0980	0.5905		
	生年記載なし X_{23}	22(36.02)	−0.0113	0.6772		
修業（出身） X_3	佐賀県の産地の窯元 X_{31}	12(19.67)	−0.0258	0.6627	0.0296	0.0340
	佐賀県以外の九州の産地の窯元 X_{32}	9(14.75)	−0.0054	0.6831		
	九州以外の産地の窯元 X_{33}	40(65.57)	0.0090	0.6975		
窯元のこだわり X_4	土へのこだわり X_{41}	12(19.67)	−0.0844	0.6041	0.0902	0.3989
	たたき・釉薬・石はぜ・掻き等 X_{42}	8(13.11)	0.0251	0.7136		
	こだわらない X_{43}	41(67.21)	0.0198	0.7083		

５節　考　察

MCA 技法は，被説明変数とそのカテゴリーおよび各説明変数とそのカテゴリーがすべて０および１のデジタル型データであるので，大規模データを必要とする．本章の研究のようにデータ数が小規模データの場合，決定係数や説明変数等が統計的に有意でなかった．しかしながら，前述のごとく，各説明変数のカテゴリーごとの修正済みカテゴリー平均値が被説明変数のカテゴリーごとで計測すると必ず上限が１になるように収束するため，構成比の概念で解釈できるというメリットがある．本章の研究はそのメリットを活かして考察していく．

表４－１の被説明変数である“とくに古唐津を目標としたい”として作陶している窯元に平均以上に影響を及ぼしている各説明変数のカテゴリーは“男性の窯元”の 0.2154，“1980 年以降の生まれ”の 0.2635，“佐賀県の産地の窯元”の 0.2441，“たたき・釉薬・石はぜ・掻き等”の 0.2709 である．これらのカテゴリーが相互に影響を及ぼした作陶を行っている窯元でもある．また，“1980 年以降の生まれ”の値よりは小さいが，“1980 年以前の生まれ”の 0.2635 も平均以上の反応であった．

表４－２の被説明変数である“とくに朝鮮唐津を目標としたい”として作陶している窯元に平均以上に影響を及ぼしている各説明変数のカテゴリーは“男性の窯元”の 0.1120，“1980 年以降の生まれ”の 0.1459 あるいは“生年記載なし”の 0.1439，“佐賀県以外の九州の産地の窯元”の 0.1002 および“九州以外の産地の窯元”の 0.0995，“土へのこだわり”の 0.2409 である．これらのカテゴリーが相互に影響を及ぼした作陶を行っている窯元でもある．

表４－３の被説明変数である“とくに唐津焼をベースにニーズに合わせたものを目標としたい”として作陶している窯元に平均以上に影響を及ぼしている各説明変数のカテゴリーは“女性の窯元”の 0.7803,“1980 年以前の生まれ”の 0.7412,“九州以外の産地の窯元”の 0.6975,“たたき・釉薬・石はぜ・掻き等”の 0.7136 および“こだわらない”の 0.7083 である．これらのカテゴリーが相互に影響を及ぼした作陶を行っている窯元でもある．

６節　結論

本章の研究を，５節の考察からの結論づけを行うが，本章の分析で用いた 61 の窯元の住所からある程度の地域的分類を行えば，表６－１のようになる．

表６－１．　61 窯元の地域的分類

浜玉町

17	玄々窯	唐津市浜玉町東山田3466
18	健太郎窯	唐津市浜玉町横田下1608-2
27	菅ノ谷窯	唐津市浜玉町東山田2207-2
29	曹源窯	唐津市浜玉町平原甲1064-1
32	天平窯	唐津市浜玉町東山田1328-1
35	陶泉房窯	唐津市浜玉町平原甲3390-7
41	鳥巣窯	唐津市浜玉町鳥巣885-1
44	中の辻窯	唐津市浜玉町横田下668
50	炎群工房	唐津市浜玉町東山田1893
55	山瀬窯	唐津市浜玉町山瀬1021-2
56	由紀子窯	唐津市浜玉町東山田800-1

七山村

37	陶ぽう空	唐津市七山馬川851

鏡

1	赤水窯	唐津市鏡4758
14	鏡山窯	唐津市鏡4958
25	幸福陶房瀬菜	唐津市鏡1235-3

北波多村

5	大杉皿屋窯	唐津市北波多大杉856-2
9	冠音窯	唐津市北波多竹有2411-1
10	岸岳窯三帰庵	唐津市北波多岸山154
12	北波多窯	唐津市北波多成渕2068-1
24	三里窯	唐津市北波多稗田3111-113
28	杉谷窯異中庵	唐津市北波多稗田2490-2
31	鎮西窯	唐津市北波多大杉1129-4
49	帆柱窯	唐津市北波多岸山375-29
57	龍仁窯	唐津市北波多稗田3312-1

相知町

3	伊岐佐窯	唐津市相知町伊岐佐6-1
6	大谷工房飯洞甕窯	唐津市相知町佐里3391-11
11	喜多窯	唐津市相知町佐里上1579-14
48	坊中窯	唐津市相知町牟田部坊中2734-2
52	牟策窯	唐津市相知町佐里2961
59	竜童窯我楽房	唐津市相知町楠175

双水

19	工房流石	唐津市双水2636-10

厳木町

4	大天家窯	唐津市厳木町うつぼ木10-1
21	作礼窯	唐津市厳木町平之279
46	浪瀬窯	唐津市厳木町浪瀬929-1

千々賀

33	唐玄窯	唐津市千々賀2567-7

宇木

34	陶工房土のいぶき	唐津市宇木1830
51	三藤窯	唐津市宇木2972-6

竹木場

36	東風窯	唐津市竹木場5189-1

佐志

38	東里窯	唐津市佐志字井尻1763-30

町田

43	中里太郎右衛門陶房	唐津市町田3-6-29
45	中野陶痴窯	唐津市町田5-9-2

菜畑

26	松円寺窯	唐津市菜畑3371-3

和多田

20	小杉窯	唐津市和多田用尺8-1
60	龍福寺窯	唐津市和多田西山12-68

見借

23	佐志山窯	唐津市見借4557
53	Monohanako	唐津市見借4838-20
58	隆太窯	唐津市見借4333-1

双水

19	工房流石	唐津市双水2636-10

東城内

13	時空窯	唐津市東城内4-55

長谷

15	桂花窯	唐津市長谷50

柏崎

2	あや窯	唐津市柏崎473

市原

7	佳津窯	唐津市市原1095-15

半田

8	川上清美陶房	唐津市半田3073-4

呼子加部島

16	敬善坊窯	唐津市呼子加部島杉ノ原

玄海町

42	中川自然房窯	東松浦郡玄海町新田1469-27

鎮西町

30	太閤三ノ丸窯	唐津市鎮西町菖浦2482-1
39	殿山窯	唐津市鎮西町名護屋1288
40	土平窯	唐津市鎮西町野元1315-3
47	炎向窯	唐津市鎮西町名護屋4725
54	八床窯	唐津市鎮西町八床4073-4

肥前町

22	山茶窯	唐津市肥前町万賀里川89-3

多久

61	五反林窯	多久市多久町2048-1

ここで，浜玉町・七山村・鏡が近接的に近いグループ，北波多村・双水・相知町・厳木町のグループ，玄海町・鎮西町・肥前町のグループ，多久市を除くその他の唐津市のグループ（あまりグルーピングできていないが）に，個人的には分類できる．唐津焼の発祥の地は，１節の課題で述べているように，岸嶽城周辺の北波多村である．北波多村・双水・相知町・厳木町から少し離れた多久市までは旧産炭地域で，石炭層の付近には古第三紀層や第三紀層があり石炭とともに良質の粘土が採れるという原料立地の地域でもある．この地域のグループに 20 の窯元がある．他の地域も粘土等の原料があるということで窯元が立地しているものと思われる．

唐津焼窯元は，紹介されている 61 の窯元の「基本情報」と「作家紹介」の掲載されている文面等から，唐津焼という伝統を守りつつさまざまな窯元独自のコンセプトをもって作陶に励んでいると見受けられる．浜玉町・七山村・鏡グループは相対的に若い年齢層が多く，唐津地域以外の出身者の窯元も多い．北波多村・双水・相知町・厳木町のグループは比較的年齢層の高い窯元である．多久市を除くその他の唐津市のグループは親子・兄弟・夫婦等の窯元が多い．

本章の研究の計量分析から，61 の窯元の平均的意識として，唐津焼発祥の地である北波多村・双水・相知町・厳木町のグループに属する窯元が古唐津焼や朝鮮唐津をとくに目標として作陶しているわけではない．唐津市のグループの窯元は親子・兄弟・夫婦等で古唐津焼・朝鮮唐津や新しい唐津焼を目標として作陶している傾向がある．浜玉町・七山村・鏡グループに属する窯元は若い年齢層が多く，唐津地域以外（記載の通り，京都，福岡，北九州，静岡，伊万里，富山等）の出身者の窯元も多い，古唐津焼・朝鮮唐津や，消費者のニーズにあった唐津焼を目標として作陶している傾向がある．

上述のような平均的な窯元の意識であるが，どの窯元も伝統的に受け継がれてきた唐津焼というコンセプトの下で作陶していることは言うまでのないことである．

注

注１）http://karatsuyaki-kamamoto.jp/kamamoto.html のトップページ参照．

注２）同上

注３）三省堂編集所編[10]，1104 頁．

注４）木原武雄［３］244～245 頁，北波多村村史編纂委員会［４］193～196 頁，相知町史編さん委員会［７］433～460 頁．

注５）三省堂編集所編[10]，834 頁．

注６）唐津市史編纂委員会編纂［２］，820～821 頁．

注７）同上，826～830 頁．

注８）Andrews,F.M. et.al［１］，pp.37～38 および pp.45～53.

参 考 文 献

[１]Andrews,F.M., Morgan,J.M.,Sonquist,J.A. and Klem,L. (1975) *Multiple Classifications Analysis － A Report on a Computer Program for Multiple Regression using Categorical predictor's, Survey Research Center, Institute for Social Research*－, The University of Michigan.

[２]唐津市史編纂委員会編纂『唐津市史　復刻版』唐津市,1991 年.

[３]木原武雄『風雲　肥前戦国武将史－戦国武将伝と山城散策―』佐賀新聞社,1995 年.

[４]北波多村村史編纂委員会『北波多村史　下巻』佐賀県東松浦郡北波多村,1963 年.

[５]黒木宏一・内山敏典「陶磁器需要に関する意識調査に基づく因果分析―多重分類分析法からのアプローチ―」『柿右衛門陶芸研究センター論集』(九州産業大学) 第５号,2009 年.

[６]相知町史編さん委員会『相知町史　下巻』相知町,1977 年.

[７]相知町史編さん委員会『相知町史　付巻』相知町,1978 年.

[８]佐賀県史編さん委員会『佐賀県史　下巻 (近代編)』佐賀県,1967 年.

[９]多久市史編纂委員会『多久の歴史』多久市役所,1964 年.

[10]三省堂編集所編『コンサイス日本人名事典 (改定新版)』三省堂,1999 年.

[11]内山敏典「陶磁器需要推移の統計的分析―主として, マイクロデータに基づく多重分類分析によるアプローチ―」『柿右衛門陶芸研究センター論集』(九州産業大学) 第５号,2009 年.

[12]内山敏典「食生活の意識調査に基づく多重分類分析―牛肉の消費問題を一例として―」『商経学会　商経論叢』(九州産業大学) 第 31 巻第４号,1991 年.

付表 1.　検索資料となる 61 の窯元の「基本情報」と「作家紹介」の掲載されている文面等のデータ

窯名	氏名 1	性別 1	氏名 1 の生年月日	出身 1	氏名 2	性別 2	氏名 2 の生年月日	出身 2	氏名 3	氏名 3 の生年月日	住所	電話
アカミズガマ 赤 水 窯	熊本　千治	男			熊本　象	男	1977 年	唐津生まれ			唐津市鎮 4758	0955-77-2061
アヤカマ あや窯	中里　文子	女	1934 年		中里　紀元	男	1932 年				唐津市柏崎 473	0955-77-1471
イキサガマ 伊岐佐窯	秀島　大介	男		唐津市出身	勝又　由香里	女		静岡県出身			唐津市相知町伊岐佐 6-1	0955-62-3317
オオアメヤ ガマ 大 天 家窯	福田　泰山	男			福田　和祐	男					唐津市厳木町うつぼ木 10-1	0955-63-2304
オオスギサラヤガマ 大 杉 皿屋窯	大橋　裕	男	1944 年 4 月 29 日								唐津市北波多大杉 856-2	0955-64-2315
オオタニコウボウハンドウガメガマ 大 谷 工 房 飯 洞 甕 窯	梶原　靖元	男	1962 年	伊万里市南波多生まれ	梶原　妙子	女					唐津市相知町佐里 3391-11	0955-62-2479
カ ズガマ 佳津 窯	和田　佳津	女									唐津市市原 1095-15	0956-77-3175
カワカミキヨミトウボウ 川 上 清 美 陶 房	川上　清美	男									唐津市半田 3073-4	0955-77-3198
カンネ ガマ 冠 音 窯	松本　幹治郎	男	1956 年	唐津生まれ							唐津市北波多竹有 2411-1	0955-64-3172
キシダケガマサンキアン 岸 岳 窯 三 帰 庵	冨永　祐司	男	1953 年								唐津市北波多岸山 154	0955-62-2123
キ タガマ 喜多 窯	濱崎　節夫	男	1948 年	熊本生まれ							唐津市相知町佐里上 1579-14	0955-62-3374
キタハ タガマ 北 波 多 窯	西川　弘敏	男	1964 年 6 月 13 日								唐津市北波多成渕 2068-1	0955-64-2263
ジクウガマ 時空 窯	峰　とし子	女									唐津市東城内 4-55	0955-74-3315
キョウザンガマ 饒 山 窯	井上　公之	男	1974 年唐津生まれ								唐津市鎮 4958	0955-77-2131
ケイカガマ 桂花 窯	岡崎　桂子	女									唐津市長谷 50	090-1511-1916
ケイゼンボウカマ 敬 善 坊 窯	中里　鉄也	男									唐津市呼子加部島杉ノ原	080-6410-2319
ゲンゲンガマ 玄 々 窯	眞清水　臧六	男	1962 年	京都市出身							唐津市浜玉町東山田 3466	0955-56-2606
ケンタロウガマ 健 太 郎 窯	村山　健太郎	男									唐津市浜玉町横田下 1608-2	0955-56-2358
コウボウリュウセキ 工 房 流 石	栗原　流石	男	1949 年 10 月 25 日								唐津市双水 2636-10	0955-74-4833
コスギガマ 小杉 窯	小杉　隆治	男	1977 年生まれ								唐津市和多田用尺 8-1	0955-72-7745
サクレイガマ 作 礼 窯	岡本　作礼	男	1958 年生まれ		岡本　修一	男					唐津市厳木町平之 279	0955-63-4680
ヤマチャガマ 山 茶 窯	井上　良	男	1947 年生まれ								唐津市肥前町万賀里川 89-3	0955-53-2687
サ シヤマガマ 佐志 山 窯	西川　一光	男	1970 年 2 月 4 日		西川　一馬	男					唐津市見借 4557	0955-74-2397
サンリガマ 三 里 窯	浜本　洋好	男	1938 年 11 月 12 日								唐津市北波多稗田 3111-113	0955-64-3730
シアワセトウボウセナ 幸 福 陶 房 瀬 菜	北島　晃	男									唐津市鎮 1235-3	0955-77-1602
マツエン ジ ガマ 松 円 寺 窯	大石　泰浩	男									唐津市菜畑 3371-3	0955-72-8010
スガノタニガマ 菅 ノ 谷 窯	桝田　重信	男	1944 年生まれ		桝田　剛	男	1977 年				唐津市浜玉町東山田 2207-2	0955-56-7841
スギタニガマ イチュウアン 杉 谷 窯 異 中 庵	夏秋　隆一	男	1947 年 12 月 18 日								唐津市北波多稗田 2490-2	0955-64-2354
ソウゲンガマ 曹 源 窯	小島　直喜	男									唐津市浜玉町平原甲 1064-1	0955-56-2188
タイコウサンノマルガマ 太 閤 三 ノ 丸 窯	江口　宗山	男									唐津市鎮西町菖蒲 2482-1	0955-82-1097
チンゼイガマ 鎮 西 窯	安永　頼山	男									唐津市北波多大杉 1129-4	0955-64-2830
テンビョウガマ 天 平 窯	岡　晋吾	男	1958 年佐世保生まれ								唐津市浜玉町東山田 1328-1	0955-56-2061
トウゲンガマ 唐 玄 窯	島谷　啓介	男	1949 年 3 月 22 日								唐津市千々賀 2567-7	0955-78-1615
トウコウボウツチノイブキ 陶工房土のいぶき	三輪　廉浩	男	1969 年	宮崎県生まれ							唐津市宇木 1830	090-2397-1677
トウセンボウガマ 陶 泉 房 窯	田龍　勇人	男	1970 年	福岡生まれ							唐津市浜玉町平原甲 3390-7	090-4984-9244
トウフウガマ 東 風 窯	中村　恵子	女	1951 年 9 月 26 日		中村　高志	男	1952 年 5 月 3 日				唐津市竹木場 5189-1	0955-74-3320
トウ ボウソラ 陶 ぼう空	府川　和泉	男									唐津市七山馬川 851	0955-58-3143
トウリガマ 東 里 窯	ボブ岡崎	男									唐津市佐志字井尻 1763-30	0955-75-3901
トノヤマガマ 殿 山 窯	矢野　直人	男	1976 年	唐津生まれ							唐津市鎮西町名護屋 1288	0955-82-4162
ドヘイガマ 土 平 窯	藤ノ木　土平	男	1949 年	新潟生まれ	藤ノ木　陽太郎	男	1981 年	唐津生まれ			唐津市鎮西町野元 1315-3	0955-82-2970
トリスガマ 鳥巣窯	岸田　匡啓	男	1983 年	静岡生まれ							唐津市浜玉町鳥巣 885-1	0955-58-2111
ナカガワ ジ ネンボウガマ 中 川 自 然 房 窯	中川　恭平	男	1983 年	玄海町生まれ							東松浦郡玄海町新田 1469-27	0955-52-2566
ナカザトタロウ ウエモントウボウ 中 里 太 郎 右 衛 門 陶 房	14 代　中里　太郎右衛門	男	1957 年	唐津生まれ							唐津市町田 3-6-29	0955-72-8171
ナカ ノツジガマ 中 の 辻 窯	平山　賢治	男	1947 年	伊万里市生まれ							唐津市浜玉町横田下 668	0955-56-6589
ナカノトウチガマ 中野陶痴窯	中野　一政	男	1947 年	唐津生まれ	中野　正道	男	1950 年	唐津生まれ	中野　政之	1979 年	唐津市町田 5-9-2	0955-73-8881
ナミセガマ 浪瀬窯	竹花　正弘	男	1974 年	唐津生まれ							唐津市厳木町浪瀬 929-1	090-4517-5561
ヒナタガマ 炎 向 窯	打越　一彦	男	1957 年	唐津市鎮西町生まれ	打越　ひろみ	女					唐津市鎮西町名護屋 4725	0955-82-6022
ボウチュウガマ 坊 中 窯	田中　孝太	男	1984 年	山口県生まれ							唐津市相知町牟田部坊中 2734-2	090-7391-0605
ホバシラガマ 帆 柱 窯	中嶋　紀文	男	1939 年		陣内　智子	女					唐津市北波多岸山 375-29	0955-64-2749
ホムラコウボウ 炎 群 工 房	碇　健	男	1969 年								唐津市浜玉町東山田 1893	0955-56-8681
ミトウガマ 三 藤 窯	三藤　るい	女	1978 年 8 月 26 日	福岡市生まれ							唐津市宇木 2972-6	0955-77-0333
ム サクガマ 牟 策 窯	坂本　祐作	男									唐津市相知町佐里 2961	0955-62-2863
モ ノ ハ ナ コ Monohanako	中里　花子	女	1972 年								唐津市見借 4838-20	0955-58-9467
ヤトコガマ 八 床 窯	戸川　雅尊	男	1981 年								唐津市鎮西町八床 4073-4	080-6411-6955
ヤマセガマ 山 瀬 窯	田中　佐次郎	男	1937 年	北九州に生まれる							唐津市浜玉町山瀬 1021-2	0955-56-8280
ユ キ コガマ 由紀子 窯	土屋　由紀子	女		唐津生まれ							唐津市浜玉町東山田 800-1	0955-56-8701
リュウジンガマ 龍 仁 窯	南森　正仁	男									唐津市北波多稗田 3312-1	0955-51-2188
リュウ タガマ 隆 太 窯	中里　隆	男		唐津生まれ	中里　太亀	男					唐津市見借 4333-1	0955-74-3503
リュウドウガマ ガ ラクボウ 竜 童 窯 我 楽 房	藤田　幹敏	男									唐津市相知町楠 175	0955-63-4492
リュウフクジカマ 龍 福 寺 窯	橋村　あいこ	女									唐津市和多田西山 12-68	090-3417-0224
ゴタンバヤシガマ 五 反 林 窯	マイケル　マルティノ	男	1967 年	ニューメキシコ州生まれ							多久市多久町 2048-1	090-6896-8466

http://karatsuyaki-kamamoto.jp/kamamoto.html より作成.

（付表１のつづき）

窯名	備考
アカミズガマ 赤 水 窯	象氏唐津市生まれ。2006 年有田窯業大学校ロクロ科卒、2006-2010 年唐津の天平窯の岡慎吾氏に学ぶ。2010 年赤水窯にて独立。親子で作陶に取り組む。陶器と時期の融合。こだわりは使う器テーブルウェアー。（ホームページ有り）
アヤカマ あや窯	女流作家、唐津焼は、主人公を引き立てるわき役。文化継承を続ける。品格。
イキ サガマ 伊岐佐窯	大介氏：唐津市出身。鏡山窯で 8 年、光来窯・唐津陶土で修業。由香里氏：静岡で 3 年、鏡山窯で 10 年、光来窯・唐津陶土で修業。（ホームページ有り）
オオアメヤ ガマ 大 天 家窯	和祐氏：有田窯業大学校へ 3 年間、そのご修業は自宅、自然体、古代にさかのぼった本、自分との対話の中で素材・釉薬・使い手を考えている。（ホームページ有り）
オオスギサラヤガマ 大 杉 皿屋 窯	唐津焼創始期の岸岳皿風の窯跡を訪ね、岸岳系の伝統を活かしたいとのことでここで登り窯を開窯。（ホームページ有り）
オオタニコウボウハンドウガメガマ 大 谷 工 房 飯 洞 甕 窯	靖元氏：伊万里市に生まれる。1980 年有田工業高校デザイン科卒業、1980 年に太閤三ノ丸窯に弟子入り、1997 年に佐里大谷に穴窯築窯。
カ ズガマ 佳津 窯	女性、美術部で勉強、昨冬歴 23 年。日々の生活は食卓から、主婦が暮らしの中で簡単に使える器。
カワカミキヨミトウボウ 川 上清美陶 房	30 代の 1979 年から瀬戸・唐津・備前・再び唐津で修業。40 代で 1988 年独立。土が生きている作品作り。弟子も多し。
カン ネ ガマ 冠 音 窯	唐津で有田焼。有田焼窯元、神話陶磁器、陶悦窯などで修業。1989 年北波多に冠音窯を開窯。高校でデザインの勉強。
キシダケガマサンキアン 岸 岳 窯 三帰 庵	3 代目。伝統を大切にし、いかに現代の暮らしで使える器を作るか。たたきの技法を用いた青唐津にこだわる。唐津焼の発祥の地北波多で伝統と革新。
キ タガマ 喜多 窯	1981 年に唐津市に開窯。結婚相手が唐津。作風は置物・細工物・彫刻陶人形・花器・香炉・石の陶。粘土・釉薬はオリジナル。外国で唐津焼をと考えている。
キタハ タガマ 北 波多 窯	山瀬窯の田中佐次郎師のもとで 10 年以上修業し、唐津市で開窯・独立。伝統ある唐津焼を作陶。400 年前の古唐津の技法と作り方を追求。（ホームページ有り）
ジクウガマ 時空 窯	女性。独学後、有田の井上萬二氏に師事し、陶芸の基礎を習得。唐津焼教室出身。和モダンを目指している。
キョウザンガマ 鏡 山 窯	1999 年多摩美術大クラフトデザイン金属コース卒、2002 年佐賀県立有田窯業学校卒、備前焼の人間国宝伊勢崎淳氏で修業し、その後鏡山窯の父親井上東也に師事、使う器にこだわる。素材・技法は唐津に従い、つくるものはこだわらない。茶器をつくり唐津のまちを抹茶のまちへ。（ホームページ有り）
ケイカガマ 桂花 窯	横浜出身：16 年前今野氏が主宰する自由工房に 2 年通い助手を経て、2000 年に開窯。陶芸教室に通う趣味仲間が集まって独立、女性 5 人で活動、唐津焼のランプや雑記を中心に作陶。
ケイゼンボウカマ 敬 善 坊 窯	先々代の意思と伯父の中里敬太郎氏の遺志を継ぎ、ひねり物を主とした唐津焼の政策。将来は石で細工物（迫力ある獅子噛み）を作りたい。
ゲンゲンガマ 玄 々 窯	1986 年京都工業試験場を修了後、陶芸家西岡小十に師事。10 年間の修業後、今日に戻り父親である眞清水臧六に師事。1998 年に割岳式登り窯玄々窯を築く。薪窯。京都で身についた茶の精神をいかした、茶陶を目指す。2013 年父親の名を襲名。
ケンタロウガマ 健太郎 窯	唐津市出身。窯業大学を卒業。川上清美氏のもとで修業したのち、浜玉に開窯・独立。現在、無地唐津や朝鮮唐津に取り組んでいる。
コウボウリュウセキ 工 房 流 石	古唐津のぐい呑みに触れたことがきっかけ。韓国との交流。熟練の技術に対する危機感。唐津焼の素朴ななかに「用の美」を追求。（ホームページ有り）
コスギガマ 小杉 窯	細工物に軸足を置いた作品作り。モチーフは魚。唐津焼の娯楽性を追求。（ホームページ有り）
サクレイガマ 作 礼 窯	伝統をベースに、新しいもの作るというコンセプト。素材は唐津市内で採れるもの。
ヤマチャガマ 山 茶 窯	登り窯は 4 連房式窯。コンセプトは計算できない野性的なもの。理想は昔ながらの唐津焼。（ホームページ有り）
サ シヤマガマ 佐志 山 窯	父親の影響。4－5 年岡山の備前焼で修業、その後父親と窯元を営む。先陣陶工の伝統をベースに、無から有を生み出す過程で自らの感性を入れていく。息子とともに営む。雑記だけでなく茶器にも挑戦。
サンリガマ 三里 窯	唐津焼の世界 40 年。唐津焼の変遷を知りつくし、次世代へ唐津焼の魅力や技法を伝える伝承者。個性を出さないことが個性。1970 年代から増えた窯元は今では減少。
シアワセトウボウセナ 幸福陶房瀬菜	あや窯で 3 年半修業し、開窯・独立、現在 7 年目。唐津出身。常に新しいものを取り入れ、デザインだけでなく、こだわりを持って作品を作り、世界の人に使ってもらいたい。飾り物、きれいなもの、立派なものを作りたい。
マツエン ジ ガマ 松 円 寺 窯	有田窯業大学校 1 期生で 1 年間父親のもとで助手をし、その後 2 代目。原材料を活かした作陶を守り、草文を描いた絵唐津を生み出している。有田で上絵の勉強をしたので、唐津焼にはこだわっていない。古唐津の良いところおさえて、現在の感性での作陶。
スガノタニガマ 菅ノ谷 窯	祖父と父が古陶が趣味であったことがきっかけに、趣味の延長で窯を作り 40 年。薪窯でおこない、土も自分で作る。古唐津を好む。息子の剛氏は有田窯業大学校卒業後、父の窯で修業。
スギタニガマ イ チュウアン 杉 谷 窯 異 中 庵	唐津焼が好きな父の影響で作陶の道へ。岸岳の土に惹かれ北波多の地で開窯。唐津焼の伝統を生かしながら、遊び心のある食器（茶道具）や洋食器も作陶。
ソウゲンガマ 曹 源 窯	父親が陶片の発掘と唐津焼の店を経営。その影響で作陶の道へ。得意な作風は朝鮮唐津、かいらぎ、色茶碗であるが、こだわってはいない。結果がすべてで普通が身上。（ホームページ有り）
タイコウサンノ　マルガマ 太 閤 三 ノ 丸 窯	1982 年県立有田工業高校窯業科卒、江戸時代より続く窯、八代目。ガス窯と登り窯で年 3 回ほど窯炊き。受賞歴あり。

（付表１のつづき）

窯名	備考
チンゼイガマ 鎮 西 窯	田中佐次郎師のもとで 2 年、藤ノ木土平師で 3 年修業し開窯・独立。独立後 5 年経過。焼も釉薬も申し分ないのに気に入らないのができるのでその理由を探し研鑽している。
テンピョウガマ 天 平 窯	肥前諸窯への勤務と独学を重ね、2003 年に浜玉町へ移転開窯。こだわりは料理の器。料理店から依頼を受け、総合的に内輪の演出・創作を手掛けることもある。〇〇焼にはこだわらない。（ホームページ有り）
トウゲンガマ 唐 玄 窯	大杉皿屋窯・唐玄窯・伊万里で 10 年修業。古唐津は 400 年以上の伝統があるが、時代に合わせて暮らしになじむもの、感動を与えるものを作りたい。唐津焼のなかで絵付けが一番楽しいとのこと。
トウコウボウツチノイブキ 陶工房土のいぶき	1994 から 99 年唐津の「あや窯」中里文子に師事。30 歳で独立。求めている唐津を活かしながらモダンかつ洗練されたシンプルな形を目指している。また、モダンな感じの器として、黒唐津、朝鮮唐津にこだわっている。
トウセンボウガマ 陶 泉 房 窯	2001 年に開窯・独立。人の真似をせず、品のある器を目指す。使用するうちに変化していくのが唐津焼。
トウフウガマ 東 風 窯	1991 年（平成 3）年に開窯。登り窯しか使わず、薪で作品を作っている。唐津焼の伝統を絶やさず、今の時代にマッチした新しいものを試行錯誤して作っていきたい。現代の若い人たちに合わせて考え方も柔軟に変えていき、暮らしの中で使いやすく、軽くて薄いものを作っていきたい。
トウ ボウソラ 陶 ぼう 空	富山市出身。石田千比呂師のもと 3 年、藤ノ木土平師のもと 3 年修業し、開窯・独立。李朝の雰囲気に惹かれた。自然と一体になり、土で表現。
トウリガマ 東 里 窯	カリフォルニア・日系 4 世。日本に来た時、備前焼の焼き締めに触れ、隆太窯・中里隆氏の唐津焼の焼き締めに魅せられ唐津焼へ。足下にある面白い殊に気づけるようにの完成で作陶。
トノヤマガマ 殿 山 窯	父・祖父の影響で唐津焼へ。日本各地や韓国で彫刻や陶芸を学んだ。古唐津を手本に。茶道や侘び寂びの日本伝統的美意識に触れる中で唐津焼を使っていただきたいとのこと。
ド ヘイガマ 土 平 窯	土平氏は大杉皿屋窯で 3 年修業した後、岐阜の美濃焼を経て、唐津に戻って開窯・独立。陽太郎氏は父のもとで 3 年修業した。土平氏の唐津焼のキーワードは遊び心。自然体で作陶。
トリスガマ 鳥 巣 窯	大学で西洋美術の勉強後、川上清美師のもとで 3 年修業後、開窯・独立。古唐津を手本にしつつ、今現代の中で必然性のある作品を作りたいとしている。
ナカガワ ジ ネンボウガマ 中 川 自 然 房 窯	中川自然房窯での修業後、先代をついで独立。唐津焼では珍しい玄海町の赤土を用い、機械を用いず自然のままでの粘土作りも行っている。その土の味わいから生まれる刷毛目、粉引きの荒々しさが魅力となっている。刷毛目朝鮮唐津にはまっているとのことである。
ナカザトタロウ ウエモントウボウ 中 里 太郎右衛門 陶 房	13 代中里太郎右衛門の長男、1983 年 13 代陶房にて作陶を始まる。唐津焼の由緒ある歴史を受け継ぐ。現代は唐津焼をつくる環境は良くなっているものの、古の方々との精神の違いか。それでも、良いものを作る努力を続けていくことが大切。掻き落とし技法。（ホームページ有り）
ナカ ノツジガマ 中 の 辻 窯	唐津焼を独学。時期と比べても人にやさしいのが唐津焼。お客のために作品を作るのではなく、今に時代に見失いがちな味や感覚を取り戻せるよう、自分の信じるものを作りたい。自由の美学。
ナカノトウ チ ガマ 中野陶痴 窯	唐津窯元の中でも歴史ある老舗。大釜。代々細工物の伝統を守りながら新しい作陶に挑戦。伝統は流れている。窯印は三階菱で小笠原藩の陶元。（ホームページ有り）
ナミセガマ 浪瀬 窯	2000 年から唐津のあや窯で 3 年修業。2003 年より厳木に割竹式登り窯を築く。古唐津を手本に、薪で焚く割竹式登り窯で作陶。モットーは使えるものを作る。日常生活に耐えうる器を作る。（ホームページ有り）
ヒナタガマ 炎 向 窯	御庭窯・大杉皿屋窯での修業後、2005 年に開窯・独立。2012 年に北波多から鎮西町へ。薪が焚ける環境の中、炎を味方にし、温かさを感じられる作陶を志す。（ホームページ有り）
ボウチュウガマ 坊 中 窯	窯業大学を卒業後、韓国で 1 年半、中川自然坊窯で 1 年半修業後、開窯・独立。自然坊最後の弟子。独立して 1 年、自分の形がまだ定まっていないとのこと。土づくりと焼にこだわっている。得意な作風は朝鮮唐津。
ホバシラガマ 帆 柱 窯	椎の峯中里窯、窯業試験場（井上萬二氏）、太閤三ノ丸（江口宗山氏）のもとで修業後、1976 年に開窯・独立。土にはこだわらず、造形にこだわる。磁器のように綺麗な唐津焼を目指している。伝統を継承しながらも、現代のニーズに合う次世代に残せるような唐津焼を目指している。
ホ ムラコウボウ 炎 群 工 房	幸悦窯で 2 年の修業後独立。手作り窯。作陶へのこだわりは、美しさと迫力。美しさは形、姿、口、ひづみ具合。迫力は、石はぜと絵。感覚がすべて。
ミトウガマ 三 藤 窯	有田窯業大学ロクロ科卒業。川上清美師事。独立して 5 年。土探し。常に作品についてのイメージを持つ。
ム サクガマ 牟 策 窯	水産関係から粘土屋へ。西岡小十氏の唐津焼が好きで作り手に。素材（土）にこだわりを持つ。
モ ノ ハ ナ コ Monohanako	中里隆氏の二女として生まれる。1996 年米国スミスカレッジ美術学部卒業。父、中里隆に陶芸を学んだ後、開窯・独立。世界でひとつのものを目指し、作陶。アメリカと唐津で半年間ずつ過ごす。とくに唐津焼にこだわっていない。作品は日常の器。職を盛りつけ暮らしを豊かにする道具。（ホームページ有り）
ヤトコガマ 八 床 窯	あや窯で 3 年半修業し、開窯・独立、土へのこだわりをもち、土の持っている魅力を引き出した昨冬。一期一会をモットーに人の目に留まって手に取ってもらえるものづくり。
ヤマセガマ 山 瀬 窯	1971 年作陶を始める。1975 年唐津半田に登り窯を築き、1980 年加藤唐九郎より教えを受ける。古いものの中に新しい感性をいかに取り込むかが作風。感性の問題。作陶歴 40 年。
ユ キ コ ガマ 由紀子 窯	九州造形短大、父や祖父の影響で唐津焼の世界へ。隆太窯で 3 年修業。使いやすくて壊れない器、買ったらすぐに使ってもらえることがモットー。（ホームページ有り）
リュウジンガマ 龍 仁 窯	学生時代に茶道を習い、各地の焼き物から古唐津に惹かれた。早期退職（57 歳）して、唐津焼作家になった。古唐津の歴史を紐解き、素材や製法・技術に対する研究を続けている。椿や野の花が好きで花入れをよく作っている。
リュウ タ ガマ 隆 太 窯	唐津焼の老舗一家「中里家」の血を継ぎ、親子で営む隆太窯。重圧の末に辿り着いたシンプルさを目指す。（ホームページ有り）
リュウドウガマ ガ ラクボウ 竜 童 窯 我 楽 房	環境が自分を形成する。工房は自然豊かな場所に立地し、植林は 2000 本以上植えた。器はクオリティーが一番高くないと作家の品が問われる。
リュウフクジガマ 龍 福 寺 窯	30 代に焼き物をしたくなりコミュニティーセンタにいき、そこで知り合ったご主人の遺志を継いで 30 年作陶し続けている。本人は造形物が得意。土も釉薬も手作り。
ゴ タンバヤシガマ 五 反 林 窯	1990 年来日し、その年に開窯、2010 から 2011 年登り窯改築。使い込むことによってより美しく変化していく作品を目指している。外国文化と日本文化との融合で生まれるシンプルで美しい作品を追い求めている。